

知立市への提言

タイトル

# 「笑子交齡化」

知立市の現状と課題（数字はすべて知立市のHPより）

○65 歳以上の人口 12, 898 人中 1, 684 人が要支援・要介護認定を受ける。（平成 26 年度）

○子供会の消滅および参加人数の減少により、地域で子ども同士が交流できる場が減っている。

○核家族化が進み地域との関わり合いが減少し、近所のおじいちゃん・おばあちゃんと遊ぶことが少なくなっている。\*二世帯（親と子）で暮らしている小学生は 77. 2%（平成 25 年）

○子どもたちが早く家に帰ってきてしまうことで、両親（特に母親）が働きたくても働けない人がいる。

\*女性の年齢階級別労働力率（平成 22 年度）25～29 歳 68. 8%→30～34 歳 61. 4%（全国平均および愛知県平均より低い）

## 知立市への政策提言

○放課後の小学校や普段使っていない公民館を開放し世代間交流の拠点とする。

- 高齢者の方々の得意なことを活かして公民館で教室を開き、子どもたちと一緒に学んだり遊んだりする。
- 中学生や高校生などの世代も気楽に公民館などに足が運べるようにする。(放課後の勉強場所、居場所として)

○人材はシルバー人材センターからの派遣や、ボランティアを回覧板や広報などで呼びかける。

## 予想される効果

○子どもたちが放課後安心して遊べる環境を提供できる。

○子どもたちと高齢者がふれあえる場をつくることができる。

○子どもたちと遊ぶことで高齢者の方の認知症予防にもなり、健康的な生活が送れる。

○現状働く時間が少なくて悩んでいる働き盛りの人たちが安心して働く時間を延ばせる。

